

令和 8 年度 北日本医療福祉専門学校
介護福祉科シラバス（１年）

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
人間の尊厳と自立	30時間	15コマ	2単位	1学年 (通年)	必修
【学修内容】					
介護場面における倫理を中心として展開し、最終的には尊厳の保持に必要な価値観を身につけることを目指す。利用者の尊厳を保持することや、介護場面の倫理を考えることで、利用者の生活歴や個性の尊重した支援の土台としていく。ひいては、生活の中での善悪判断や、モラルの獲得につながるようにする。					
【到達目標】					
1. 日本国憲法に規定されている基本的人権への理解を深める。 2. 人間の尊厳を介護実践場面から考えることができる。 3. 自立・自律の意味を、生活経験の中から捉えることができる。 4. 人間の主体的な生活について理解を深める。 5. 尊厳の捉え方の多様性を理解し、尊厳の保持する上で必要な倫理観を身に付けることができる。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・試験及びレポートを総合的に評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・他教科の基本となる考え方、知識となりますので復習を欠かさず行いましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解					
【履修にあたっての留意点】					
・学修したことをもとに考察・レポートをかける力を養いましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
人間関係とコミュニケーション	30 時間	15コマ	2 単位	1 学年 (後期)	必修
【学修内容】					
領域「介護」のコミュニケーション技術の土台となる科目である。言葉づかい、姿勢、マナー等に焦点を充て、社会人としてのメール文章のやりとり方法や手紙の書き方など様々なコミュニケーションツールを用いて展開していく。					
【到達目標】					
1. 適切な言葉づかいを用いたコミュニケーションができる。 2. コミュニケーションを図るうえでのマナーを習得する。 3. 説明責任を果たす方法やその手続きについて理解する。 4. 言語に捉われない表現豊かなコミュニケーションを図ることができる。 5. チームにおけるコミュニケーションを理解する。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・試験及びレポートを総合的に評価する。試験90%及びレポート10%の評価とする。 ・考査前の授業の際に、回答におけるポイントを説明するので、それをきちんと聞いて事前学習を行い考査に臨んでください。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・コミュニケーションは情報収集の大切なツールです。積極的に自己学習を進めてください。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講 1 人間の理解					
【履修にあたっての留意点】					
介護福祉士の仕事は多くの職種とのつながりを学ぶことも大切です。この教科から、協働を考えられるように学びを深めましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
社会の理解Ⅰ	30時間	15コマ	2単位	1学年 (前期)	必修
【学修内容】					
介護福祉士として必要な社会に関する諸制度を理解し、多様な利用者のニーズを把握する能力を養う。 介護福祉士として必要な障害者の支援を担う制度について最適なケアを提供できる能力を養う。 介護実践にかかわる諸制度に関する理解を中心に、専門性の高い介護福祉士の土台を構築する。					
【到達目標】					
1. 介護と福祉制度の関連性を理解する。 2. 介護福祉士に求められる業務を理解する。 3. ライフステージに応じた社会福祉サービスを把握する。 4. 福祉制度の歴史的変遷を理解する。 5. 利用者に関わる権利擁護制度を理解する。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・試験の成績70% 講義への参加態度、課題への取り組みの姿勢30%で評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・予習：第2回以降、講義の最後に示す該当箇所を読んでください（30分程度） ・復習：学んだその日のうちに、講義内容に目を通し、疑問点などは調べてみましょう（60分程度）					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座2 社会の理解					
【履修にあたっての留意点】					
・講義中の私語や無許可で席を離れることは認めません。真摯に授業に取り組む姿勢で臨んでください。 ・講義の最後で示す、次の講義内容に関連する箇所を読み、予習を進めていくことを心がけてください。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護の基本Ⅰ	60時間	30コマ	4単位	1学年 (前期)	必修
【学修内容】					
介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通し、介護実践の基本的姿勢の知識を習得させ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、“その人らしさ（個性）”について理解させるとともに、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深め、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などを学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護が実現できるような知識の習得を図る。					
【到達目標】					
1. 介護の歴史や介護問題の背景を理解し、介護福祉士を取り巻く社会状況を認識できる。 2. 介護の社会化の背景や、超高齢社会を担う専門職として介護福祉士に求められる社会的役割を理解する。 3. 社会福祉士及び介護福祉士法誕生の背景及び改正ポイントを理解し、介護福祉士の定義と義務を認識できる。 4. 介護を必要とする人及び家族の様々な生活上の課題を理解する。 5. 介護の対象者が、高齢者の偏らないよう、障害者に対する理解も同様に深めることが出来る。 6. QOLの意味を理解し、一人ひとりがその人らしい生活を継続するための支援の重要性を理解できる。 7. ノーマライゼーションの歴史的背景と理念について理解し、その理念に基づいた地域支援の課題について理解できる。 8. 自立に向けた介護の視点から、新しい障害観であるICF概念やその活用の基本姿勢について理解できる。 また、介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させること（エンパワメント）の意義について理解する。 9. リハビリテーションの概念である「全人的復権」について理解し、施設及び病院における生活機能の向上や介護予防の取り組みについて理解する。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・筆記試験90%・レポート、課題の取り組み10%とし評価する。 ・担当教員1：67%、担当教員2：33%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・授業前には教科書を読み予習をしましょう。 ・介護福祉士の基礎となる教科書ですので、毎時間の復習も頑張りましょう。					

【使用教材・教具】
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 3・4 介護の基本Ⅰ・Ⅱ ・配布プリント
【履修にあたっての留意点】
・介護の基本的な考え方を学びましょう。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護の基本Ⅱ	60時間	30コマ	4単位	1学年 (前期)	必修
【学修内容】					
介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通し、介護実践の基本的姿勢の知識を習得させ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、“その人らしさ（個別性を）”について理解させるとともに、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深め、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などを学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護が実現できるような知識を習得する。					
【到達目標】					
1. 介護を必要とする人及び家族の様々な生活上の課題を理解する。 2. 生活上の課題の理解のために必要なサービスや、地域の中の社会資源を理解する。 3. 介護の対象者が、高齢者の偏らないよう、障害者に対する理解も同様に深めることが出来る。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・筆記試験90%・レポート、課題の取組み10%とし評価する。 ・担当教員1：80%、担当教員2：20%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・介護の個別性を考える時、色々な手法が考えられます。調べ学習をしてその手法を考えられる技術を身に付けましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 4・6 介護の基本Ⅱ・生活支援技術Ⅰ ・適宜資料配布					
【履修にあたっての留意点】					
・講義・演習を基本に進めていきます。グループワークが多いので協力して取り組み、メンバーの様々な意見を聞いて、考えを深めましょう。 ・演習をとおして対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力をつけましょう。 ・授業中に行なわれる演習やレポートも評価に含まれるので、日々の授業に真剣に取り組まましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護の基本Ⅲ	60時間	30コマ	4単位	1学年 (通年)	必修
【学修内容】					
介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通し、介護実践の基本的姿勢の知識を習得させ、一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣など、“その人らしさ（個別性を）”について理解させるとともに、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解を深め、ケアマネジメントや職業倫理、リスクマネジメント、そして介護従事者の健康管理などを学ぶことにより、安全かつ安心できる介護や信頼のおける介護が実現できるような知識を習得する。					
【到達目標】					
1. 介護実践におけるチームとは何か、多職種の役割を学び、チームワークに参画する意義、連携方法を理解できる。 2. 多職種や地域との連携においても、一人の気づきから生まれることを理解できる。 3. 介護の対象者が、高齢者の偏らないよう、障害者に対する理解も同様に深めることが出来る。 4. 安全の概念を予防・自立の点から考察し、セーフティマネジメントのあり方を理解できる。 5. 介護従事者の安全・健康管理を保障するための知識・技術を活用できるようになる。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・筆記試験100%として評価する。					

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
・教科書・配布資料をよく読み理解できるようにしましょう。
【使用教材・教具】
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座3・4 介護の基本Ⅰ・Ⅱ ・適宜資料配布
【履修にあたっての留意点】
・介護福祉士として働く上での倫理について、また、働く場での事故・怪我、連携が必要となる職種について理解しましょう。 ・講義中心の授業になりますので、しっかりと聞き、ノートをしっかりとるようにして下さい。 ・介護従事者が、仕事で力を発揮し充実した生活を送るためには、健康で安全に働けることが重要です。健康を守るための法制度や、健康管理について学び身につけましょう。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
コミュニケーション技術Ⅰ	30時間	15コマ	1単位	1学年 (前期)	必修

【学修内容】
コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。 学習方法としては、ロールプレイで実際に体験し、グループディスカッションで、対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について展開する。また、介護は対人援助に関する多職種との協働によって成り立つ。介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法について学習する。
【到達目標】
1. 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解できる。 2. 利用者・家族との関係づくりについて理解する。 3. さまざまなコミュニケーション技法について理解する。 4. 感覚機能、運動機能、認知・知覚機能が低下している利用者の状態について理解し、それに応じたコミュニケーション技法について学び、習得する。
【授業の方法】
・演習
【成績評価の方法と基準】
・筆記試験90%・レポート10%の評価 ・担当教員1：47%、担当教員2：20%、担当教員3：33%
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
・グループディスカッションでは羞恥心をもたずに積極的に取り組みましょう。
【使用教材・教具】
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術 ・新手話教室入門 ・本校作成手話テキスト
【履修にあたっての留意点】
点字、手話の自己学習を勧めましょう。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
コミュニケーション技術Ⅱ	30時間	15コマ	1単位	1学年 (後期)	必修

【学修内容】
コミュニケーションの基本を理解したうえで、具体的なコミュニケーション技法の習得を目指す。 学習方法としては、ロールプレイで実際に体験し、グループディスカッションで、対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について展開する。また、介護は対人援助に関する多職種との協働によって成り立つ。介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解し、チームの一員としてのコミュニケーションの方法について学習する。
【到達目標】
1. 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。 2. さまざまなコミュニケーション技法について理解し、実際に体験することでそれらを習得する。 3. 介護におけるチームのコミュニケーションに必要な記録や報告等について学び、その技術を習得する。
【授業の方法】
・演習

【成績評価の方法と基準】
・筆記試験・レポートの評価 ・担当教員 1：33%、担当教員 2：67%
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
・介護福祉士の仕事は、コミュニケーションなくして成り立ちません。羞恥心をもたずに積極的に授業に参加しましょう。記録には PC 操作も必要な技術です。苦手な人は自己学習に努めましょう。
【使用教材・教具】
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 ・配布資料
【履修にあたっての留意点】
・連携する職種の専門性を理解しましょう。他職種とのコミュニケーション、介護チームとしてのコミュニケーションを考えながら学習しましょう。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
生活支援技術Ⅰ	60時間	30コマ	2単位	1 学年 (前期)	必修
【学修内容】					
生活支援の基礎を理解させることにより、自立に向けた移動・身支度の介護を安全安楽で介護する技法と知識を習得し、身体・精神状態に応じた適切な介護及び自立支援を考慮した介護が提供できる能力を身につける。					
【到達目標】					
1. 生活支援の基本が理解できる。 2. 自立に向けた移動の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。 3. 自立に向けた身支度の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。					
【授業の方法】					
・演習					
【成績評価の方法と基準】					
・筆記試験・レポートの評価 実技試験の評価 ・担当教員 1：50%、担当教員 2：50%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・ここから先のしくみと関連付けて学習しましょう。 ・実技習得のために自己学習も進めましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 6・7 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ ・配布プリント					
【履修にあたっての留意点】					
・教室移動等の連絡があります。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
生活支援技術Ⅱ	60時間	30コマ	2単位	1 学年 (通年)	必修
【学修内容】					
自立に向けた食事の介護及び入浴・清潔保持、排泄の援助を安全安楽で介護する技法と知識を習得し、身体・精神状態に応じた適切な介護及び自立支援を考慮した介護が提供できる能力を身につける。					
【到達目標】					
尊厳の保持の視点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について修得させる。 1. 自立に向けた食事の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。 2. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。 3. 自立に向けた排泄の介護について理解し、適切な介護技術を提供する知識と技術を身につける。 4. ICF の視点に基づくアセスメントを理解し、展開することが出来る。					
【授業の方法】					
・演習					
【成績評価の方法と基準】					
・期末及び期中の筆記・実技試験により評価 ・担当教員 1：94%、担当教員 2：6%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					

・復習：授業で習った実技の練習を各自行って下さい。
【使用教材・教具】
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ
・適宜資料配布
【履修にあたっての留意点】
・介護実習へ行くためには実技試験の合格が必須です。繰り返し練習をしましょう。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
生活支援技術Ⅲ	60時間	30コマ	2単位	1学年 (前期)	必修
【学修内容】					
1. 介護上の様々な視点からＩＣＦの展開方法を身につける。					
2. 自立に向けた家事援助の方法と知識を習得し、適切なサービスが提供できる能力を身につける。					
3. 利用者の居住環境整備の意義と目的を理解させ、適切な援助が提供できる能力を身につける。					
【到達目標】					
1. 自立に向けた家事援助の方法と知識を理解し、適切なサービスが提供できる。					
2. 利用者の居住環境整備の意義と目的を理解し、適切な援助が提供できる。					
3. 家庭生活にかかわる考え方や営みを理解し、適切なサービスを提供できる。					
【授業の方法】					
・演習					
【成績評価の方法と基準】					
・筆記試験・レポートの評価					
・担当教員1：27%、担当教員2：23%、担当教員3：27%、担当教員4：23%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・学習内容が多岐にわたります。生活分野のそれぞれの技法を学びましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ					
・適宜資料配布					
【履修にあたっての留意点】					
・自分の生活を振り返りながら学習してみましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護過程Ⅰ	30時間	15コマ	1単位	1学年 (前期)	必修
【学修内容】					
介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方を個別的に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して理解する。					
介護過程を展開するにあたって、情報の収集やアセスメントの内容によって異なる介護計画が導かれてしまうこと、そのための的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解しスキルを高める。					
【到達目標】					
1. 介護過程の意義、目的・目標から、専門職の課題を把握することができる。					
2. 介護過程における「問題」および「ニーズ」という用語について理解し、とらえ方や解決過程を把握することができる。					
3. ICFの基本を理解し、介護過程との関係が把握できる。					
【授業の方法】					
・演習					
【成績評価の方法と基準】					
・筆記試験90%・レポート10%の評価とする。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・介護福祉士の基本となる科目であり、介護実習でも学習していく科目です。他教科と関連付けながら学習を勧めましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程					
・配布プリント					
【履修にあたっての留意点】					

・介護福祉士の基礎となる教科です。予習復習をして授業に望みましょう。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護過程Ⅱ	30時間	15コマ	1単位	1学年 (前期)	必修
【学修内容】					
介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方を個別的に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して理解する。					
介護過程を展開するにあたって、情報の収集やアセスメントの内容によって異なる介護計画が導かれてしまうこと、そのための的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解しスキルを高める。					
【到達目標】					
1. 把握すべき事実の内容を理解し、課題の抽出ができるようになる。					
2. アセスメントの意義を理解し、なぜその項目が必要なのか説明することが出来る。					
3. アセスメントツールがどのような思考の元に作られてきたのかを理解することができる。					
【授業の方法】					
・演習					
【成績評価の方法と基準】					
・筆記試験90%・レポート10%の評価とする。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・この分野は、利用者を理解し介護過程を展開していくうえで大切な分野です。演習でも展開できるよう学習を進めましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程					
・配布プリント					
【履修にあたっての留意点】					
・講義前の予習・復習をしましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護過程Ⅲ	30時間	15コマ	1単位	1学年 (後期)	必修
【学修内容】					
介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決法であることを理解する。利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方を個別的に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを、演習を通して理解する。					
介護過程を展開するにあたって、情報の収集やアセスメントの内容によって、異なる介護計画が導かれてしまうこと、そのための的確な情報収集やアセスメントの必要性を理解しスキルを高める。					
【到達目標】					
他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護計画の立案、介護過程の展開をとおり、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。					
1. 介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であると理解する。					
2. 把握すべき事実の内容を理解し、達成すべき課題の抽出及び優先順位を検討することができる。					
3. 介護過程の展開における評価の重要性を理解し、その評価が適正なものであるかどうかの判断、また他者の計画への正当な評価が出来るようになる。					
【授業の方法】					
・演習					
【成績評価の方法と基準】					
・期末の筆記試験の成績100%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・予習：次回に行われる授業の範囲の教科書を読んできて下さい。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座9 介護過程					
【履修にあたっての留意点】					
・学修したことを元に介護計画を立案する力を養いましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護総合演習Ⅰ	30時間	15コマ	1単位	1学年 (前期)	必修
【学修内容】					
介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けを教授することにより、介護福祉士として介護実習中の実践力を身につけることができる能力を養う。 実習後は十分な振り返る能力を養う。					
【到達目標】					
1. 介護施設の概要と利用者の生活像を整理・理解でき、介護福祉士としての役割が明確化できる。 2. 他者理解に必要な基本的方法やマナーを習得する。 3. 実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。					
【授業の方法】					
・演習					
【成績評価の方法と基準】					
・筆記試験90%・レポート10%の評価とする。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・介護実習前の大切な科目です。実習生としての学びを深めるために、記録等不安なく実習に望めるよう学習を進めましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・介護実習要綱					
【履修にあたっての留意点】					
・予習・復習をして授業に望みましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護総合演習Ⅱ	30時間	15コマ	1単位	1学年 (前期)	必修
【学修内容】					
介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けを教授することにより、介護福祉士として介護実習中の実践力を身につけることができる能力を養う。 実習後は十分な振り返る能力を養う。					
【到達目標】					
1. 実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。 2. 介護実習を経験し、実習施設の概要と利用者の生活ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。 3. 介護実習を経験し、自己を客観的に振り返り、次の介護実習に向けた課題を明確化できる。					
【授業の方法】					
・演習					
【成績評価の方法と基準】					
・期末、期中の筆記試験、レポートで評価し単位を認定する。 ・筆記試験80%、レポート20%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・予習、レポート作成					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・介護実習要綱					
【履修にあたっての留意点】					
・『介護過程』のテキストを併用し、アセスメントの基本をしっかりと定着させてから演習に望みましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護総合演習Ⅲ	30時間	15コマ	1単位	1学年 (後期)	必修
【学修内容】					
介護実習に向けての心構え、予備知識、動機付けを教授することにより、介護福祉士として介護実習中の実践力を身につけることができる能力を養う。実習後は十分な振り返る能力を養う。					
【到達目標】					
1. 実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。 2. 介護実習を経験し、実習施設の概要と利用者の生活ニーズを整理・理解でき、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化できる。 3. 介護実習を経験し、自己を客観的に振り返り、次の介護実習に向けた課題を明確化できる。 4. 個別ケアや多様なサービス形態のあり方を理解できる。					
【授業の方法】					
・演習					
【成績評価の方法と基準】					
・筆記試験90%・レポート10%の評価とする。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・実習に向けての授業です。不安なく実習に向えるよう学習を進めましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・介護実習要綱					
【履修にあたっての留意点】					
・予習・復習をしましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護実習Ⅰ－1	100/135時間	15日間	計3単位	1学年 (後期)	必修
【学修内容】					
1. 介護福祉士として知識、技術、態度を身に付け、介護現場で実践できる能力を形成する。 2. 実習を通し総合的な福祉サービスへの理解を深め、福祉専門職として介護福祉士の役割を認識し、その役割を果たす能力を養う。					
【実習到達目標】					
1. 学んだ知識を活用し、利用者との人間的なふれあいを深める。 2. 利用者が必要とする介護サービスを提供する際に必要な理解力、判断力を養う。 3. 障害および状況に応じた介護技術が提供できる。 4. 介護計画の立案、記録について学び、チームの一員として介護サービスが提供できる。 5. 利用者に提供する介護サービス全般について職務内容の理解を深める。 6. 実習を通して自己の介護観を形成できる。					
【授業の方法】					
・実習					
【成績評価の方法と基準】					
・施設評価及び教員評価をもとに評価する。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・教員の巡回を利用し、実習でのつまづきを解消して行きましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・本校介護実習要綱					
【履修にあたっての留意点】					
・提出物は遅れのないように提出すること。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
介護実習Ⅰ－2	35/135時間	5日間	計3単位	1学年 (後期)	必修
【学修内容】					
1. 介護福祉士として知識、技術、態度を身に付け、介護現場で実践できる能力を形成する。 2. 実習を通し総合的な福祉サービスへの理解を深め、福祉専門職として介護福祉士の役割を認識し、その役割					

を果たす能力を養う。
【実習到達目標】
1. 学んだ知識を活用し、利用者との人間的なふれあいを深める。 2. 利用者が必要とする介護サービスを提供する際に必要な理解力、判断力を養う。 3. 障害および状況に応じた介護技術が提供できる。 4. 介護計画の立案、記録について学び、チームの一員として介護サービスが提供できる。 5. 利用者に提供する介護サービス全般について職務内容の理解を深める。 6. 実習を通して自己の介護観を形成できる。
【授業の方法】
・実習
【成績評価の方法と基準】
・施設評価及び教員評価をもとに評価する。
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
・教員の巡回を利用し、実習でのつまづきを解消して行きましょう。
【使用教材・教具】
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 ・本校介護実習要綱
【履修にあたっての留意点】

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
発達と老化の理解	60時間	30コマ	4単位	1学年 (通年)	必修
【学修内容】					
人間の成長と発達、老化に伴う心身の変化や日常生活に及ぼす影響、高齢者に多い疾病などについて教授し生活支援技術の根拠となる知識の習得を図る。					
【到達目標】					
1. 人間の成長と発達の基礎的理解、健康な子供の成長・発達及び老年期の発達と成熟について理解する。 2. 高齢者の病気の特徴及び老化に伴うこころとからだの変化と日常生活の留意点について習得できる。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・期末及び期中の筆記試験により評価します。					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・家庭学習を進め積極的に知識の習得に努めましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 ・配布プリント					
【履修にあたっての留意点】					
・予習復習をしましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
認知症の理解	60時間	30コマ	4単位	1学年 (後期)	必修
【学修内容】					
認知症を取り巻く状況、医学的側面からみた認知症の基礎的理解、さらに日常生活の場の特性を踏まえて連携と協働による支援、家族への支援等教授し、認知症の人への生活支援の根拠となる知識を習得する。					
【到達目標】					
認知症に関する基礎的知識を習得するとともに認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を養う。 1. 認知症を取り巻く状況及び医学的側面からみた認知症の基礎を習得できる。 2. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活の留意点を習得できる。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・期末及び期中の筆記試験により評価します。					

【授業時間外に必要な学修の具体的内容】
・家庭学習を進め積極的に知識の習得に努めましょう。
【使用教材・教具】
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解
【履修にあたっての留意点】
・予習復習をしましょう。

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
こころとからだのしくみⅠ	60時間	30コマ	4単位	1学年 (前期)	必修
【学修内容】					
人間の欲求の基本的理解やこころの仕組みの基礎、からだのしくみの基礎について教授しこころとからだは相互に影響し合うことを理解し、生活支援技術の根拠となる知識を習得する。					
【到達目標】					
1. こころのしくみが理解できる。					
2. からだのしくみが理解できる。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・試験90%・レポート10%で評価する。					
・こころのしくみ50%、からだのしくみ50%					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・介護は人間を知ることが必要です。介護をするうえで基本となる教科ですので予習復習をして授業に望みましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ					
・中央法規出版 イラストでわかる高齢者のからだと病気					
【履修にあたっての留意点】					
・分からないところは、調べ学習等で自己学習もしましょう。					

科目名	授業時数	コマ数	単位数	対象学年	必修/選択
こころとからだのしくみⅡ	60時間	30コマ	4単位	1学年 (後期)	必修
【学修内容】					
移動、入浴、食事、排泄等日常生活の活動とこころとからだのしくみ及び死にゆく人のこころとからだのしくみについて教授し生活支援の根拠となる基礎的な知識の習得を図る。					
【到達目標】					
1 移動、身じたく、入浴、清潔保持、食事、排泄、睡眠に関連したこころとからだのしくみ及び死にゆく人のこころとからだのしくみが理解できる。					
2 生活支援行為の妥当性が判断できる。					
【授業の方法】					
・講義					
【成績評価の方法と基準】					
・期末・期中の試験、により評価（担当教員1：90%、担当教員2：10%）					
【授業時間外に必要な学修の具体的内容】					
・予習、復習、レポート作成、他教科の生活支援技術の併修をしましょう。					
【使用教材・教具】					
・中央法規出版 最新・介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ					
・中央法規出版 イラストでわかる高齢者のからだと病気					
【履修にあたっての留意点】					
・関連する『障害の理解』『生活支援技術Ⅲ』のテキスト併用し、復習、調べ学習をし、基礎知識を高めると解剖学的にも理解が深まるでしょう。					